



広報おんな

平成11年3月発行 (No.218) 恩納村 総務課 TEL(098)966-8006



冬のまつり盛大に開催 第1回恩納村産業まつり

青と緑の豊かな活力ある村

村のひと(1月末日)

男	4,861人	(-1)
女	4,655人	(+5)
計	9,516人	(+4)
世帯数	3,187世帯	(+8)

◆村民の創作した作品を一堂に展示

◆おめでとう九州大会出場

◆むらの話題 新村長の就任を祝う 他

比嘉茂政前恩納村長から村育英基金へ寄付

12月14日付けで恩納村長を退職し沖縄県出納長に就任した、比嘉茂政氏が2月5日に村役場を訪問し大城英喜村長に村の青少年の育成に役立てて下さいと寄付がありました。

贈呈式には、仲嶺教育長、山城収入役も同席し、今回比嘉氏から贈呈された寄付金は村育英基金として大学や短大で学ぶ学生を援助する資金にあてられる。



万座会から村育英基金に寄付

万座ビーチホテルが取引している業者で作られている万座会からチャリティーゴルフ等の収益金を昨年に引き続き村へ寄付がありました。

贈呈式は、2月10日に村長室で行われ大城英喜村長に万座会の城田隆(有村産業専務)から寄付金が贈呈され、

村では今回の寄付金を村育英基金として大学や短大で学ぶ学生を援助する資金にあてられる。



善意ありがとうございます

村育英基金へ

比嘉茂政様(前恩納村長) 山田2681-1 1,000,000円

万座会様(会長城田隆) 万座ビーチホテル取引業者 129,500円

村社会福祉審議会へ

宮平 斉様(真栄田1469) 香典返し 100,000円

糸数達郎氏に人権擁護委員を委嘱

法務大臣から委嘱される人権擁護委員に山田区の糸数達郎氏が新しく委員に委嘱されました。

今回委嘱を受けた糸数氏のほかに、次の方々も委員として委嘱を受け人権擁護の活動を行っています。



平安名 盛 文氏
(前兼久)
当 山 君子氏
(安富祖)

子ども会勤労体験学習

勤労体験学習の目的

自然に親しみながら、勤労体験学習(田植え)をととお互いに協力し友情の輪を広げ、今後の子ども会活動に役立てる。



田植えに挑戦!!

子ども会からの参加を募集しています。

主 催	／恩納村子ども会育成連絡協議会
日 時	／平成11年3月13日(土) 13:30集合 14:00開始
場 所	／安富祖地区公民館前(受付場所)
参 加 対 象	／各字子ども会・ジュニアリーダー・育成者
準備するもの	／着替え・タオル
申込方法	／当日受付
参加の留意点	／参加者の送迎は保護者及び育成者が行って下さい。
問い合わせ先	／村教育委員会内(子ども会事務局)
	☎966-8506 (伊波まで)

卒業・卒業日程 おめでとう

一平成10年度恩納村(幼・小・中)卒業式日程一

	幼稚園	小学校	中学校
安 富 祖	3月19日(金) 9:30	3月17日(水) 9:00	3月17日(水) 9:00
喜瀬武原	3月19日(金) 9:00	3月17日(水) 9:00	3月17日(水) 9:00
恩 納	3月19日(金) 9:30	3月23日(火) 9:00	3月17日(水) 9:00
仲 泊	3月19日(金) 9:30	3月23日(火) 9:30	3月17日(水) 9:00
山 田	3月19日(金) 9:00	3月23日(火) 9:00	3月17日(水) 9:00

青と緑の活力ある村を広く村内外にアピール



▲ちびっこに大人気のポニー乗馬



▲観光関連業者も屋台村を出店



▲ルネッサンス専属バンドによるステージ



▲地元ティダカンパニーの楽しいステージ

地場産業の発展に寄与する



▲琉球村からは民謡ショー



▲ちびっこもまつりを楽しみました



▲各テナントで特産品を即売



▲会場には村の産物がいっぱい

第1回 恩納村産業まつり

勢揃い、わった一村の自慢品



▲役員によるテープカット（第1回産業まつりが開催）

これまで村地域振興推進協議会で開催されていた「農業まつり」を一段格上げして、より広く村内外に村の産業をPRしようとする「第一回恩納村産業まつり」（主催：村産業まつり実行委員会）が二月十三日と十四日の両日村コミュニティ広場で開催され、二日間を通じて多くの皆さんが会場を訪れました。

十三日には、オープニングセレモニーも行なわれ、主催者を代表して同まつり実行委員長の大城英喜村長は、「まつりを通して村づくりを更に前進させ、二十一世紀にむけた村づくりにますます弾みがつくものと期待しているところで、す」とあいさつし、村長、議長を含めた役員六名によるテープカットで産業まつりは開会しました。

会場内に設けられた各テナントでは、JAやんばる恩納支所・商工会・漁業組合等の関係する分野からの出店のほか、村内のリゾートホテルからはリゾート屋台村が会場の一角に設けられ、会場を訪

れた村民らは村内で生産されている品々を手に取りながら楽しんでいました。

まつり期間中、会場内のステージでは、村内事業所で活躍しているタレントショーや民謡ショーが行われ会場を盛り上げました。また、地元出身のティダカンパニーのステージも会場を盛り上げました。

第一回恩納村産業まつりの最後は、会場内のメイン展示場に飾り付けされた農産物をJA職員が威勢よくセリ即売を行い、会場に訪れた村民らは、両手いっぱい野菜や果物を持って家路につきまし



▲かりゆし太鼓の勇壮な演舞



▲果物や野菜で見事な展示



▲セリ即売は大にぎわい

冬のまつり盛大に開催

おめでとう九州大会出場

安富祖少年ソフトボール 安富祖中学校ソフトボール 恩納中学校ソフトボール



中学新人ソフト県大会では、1月30日に行なわれた決勝で恩納中対安富祖中と恩納村同士の対戦で熱戦の末、優勝に恩納中、準優勝に安富祖中となり、来る3月27～28日にかけて宮崎県で開催される第9回全九州中学校選抜ソフトボール大会に両チームが県代表で参加します。



春季少年ソフト県大会では、1月17日に安富祖少年ソフト対屋宜原少年ソフトで決勝戦が戦われ、安富祖が伝統的な強さを見せ付け大差で見事優勝に輝き、3月27～28日に開催される第9回九州小学生ソフトボール大会に県を代表して参加します。

日頃の生活が高く評価



2月16日、恩納校の教諭や生徒が村役場を訪問しこれまでの表彰受賞を大城村長へ報告に訪れました。

児童生徒等表彰規定による表彰

◎恩納中学校生徒会（児童生徒の模範・ボランティア活動）

全国美術教育振興会より学校賞受賞

◎恩納小学校（美術教育の評価）

沖縄県リコーダーコンテスト

◎合唱の部 恩納中学校（全日本リコーダーコンテストに推薦）

塩屋区で「ふれあい植樹デー」開かれる

フラワーフェスタ'99県民一鉢運動の一環として行なわれた「ふれあい植樹デー」が2月21日、塩屋区民運動場で開催され、区民約80名が参加して開催されました。恩納村での開催は今回で4回目。

参加者は、準備されたサクラ等をスコップやクワで丁寧に植樹していました。



新春囲碁大会で熱戦を繰り広げる

恩納村囲碁愛好会新春囲碁大会



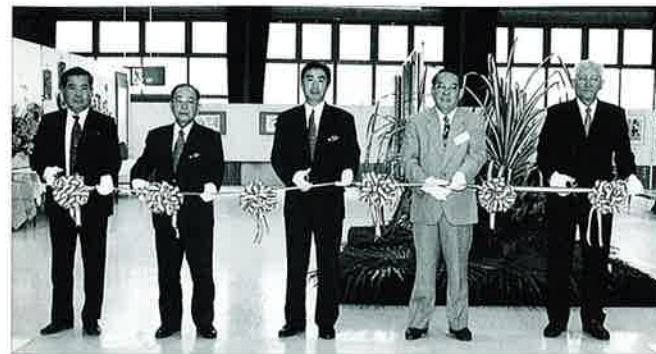
恩納村囲碁愛好会（伊芸克行会長主催）による新春囲碁大会が一月三十一日、万座ビーチホテル内で開催され伊芸会長をはじめ村内外の囲碁愛好家二十五名が参加、熱戦を繰り広げました。囲碁愛好会では、村内に囲碁愛好家を増やして村民の交流を図ることを目的に毎年開催しているもので、参加者の実力に応じて、三段以上のAクラス、二段のBクラス、初段と一級のCクラス、二級以下のDクラスと四部門に別れて各クラスリーグ戦で対局が行なわれました。

大会には、県内トップ棋士の新里正秀七段も激励に駆け付け指導戦を行なっていました。

Aクラス	優勝	富着信和	三段
Bクラス	優勝	島袋誠一	二段
Cクラス	優勝	漢那清彦	一級
Dクラス	優勝	喜納洋一	四級

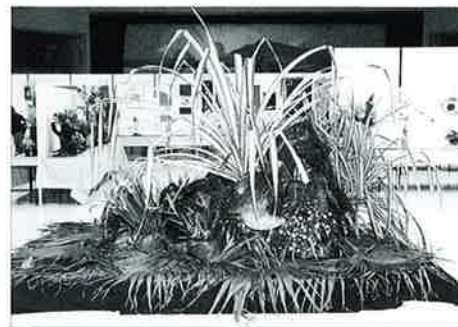
なお、各クラスの優勝者はそれぞれ昇段、昇級しました。

村民の創作した作品を一堂に展示



▲役員によるテープカット

▼会場で目を引き付けた華道合作



オープニングセレモニーも行なわれ、主催者を代表して文化協会の喜納福常会長は、「今回の展示会には木工や紅型の出品があり、回を重ねるごとに充実していることは、関係者皆様のお陰です。」とあいさつし、大城英喜村長からは文化協会の幅広い日頃の活動に対し、「村民が芸術文化の創造や喜びを求め、創作活動が活発になってきております。」とあいさつがありました。

第七回の文化展には、絵画、彫刻、陶芸などの九部門に九十五名から二百四十点余りの作品が出品され、特に入口正面に展示された華道の合作は会場に訪れる人の目を引き付けていました。それ以外にも特別展示として恩納区の伊芸美津子さんが仲泊の米川さんに当てる絵はがき百点余りの展示や小中学生の書き初めコンクールで金賞、銀賞に入選した作品も展示され期間中に多くの村民が会場に足を運び村民力作の鑑賞を楽しみました。



▲大城村長も開催を喜ぶ



▲展示期間中多くの村民が鑑賞



▲絵画の部も力作ぞろい



第7回 恩納村文化展



琉歌といえば、八八八六調の琉球方言による短歌であるが、近年この伝統的文化に対する関心が高まっている。恩納村といえば、琉歌の名人恩納ナビーや吉屋チルールの生まれ島としてとみに知られたっている。

せっかく天下に知られた先人たちの琉歌を地域おこしに活かさぬ手はなく、というわけで恩納村商工会が中心になって実行委員会をつくり「琉歌大賞」の設定となったのであるが、回を重ねるごとに応募者も増え、「琉歌の里」をより一層広めるのに役買っている。

一九九八年十一月二十二日に、第八回「琉歌大賞」の表彰式があり会場にはすでに受賞者の人たちが姿を見せていた。会場のロビーには「あなたも琉歌をどうぞ」とばかり短冊が並べられ、来場者に即興の琉歌を書き込んでもらっていた。

今年の応募者は千三百人余とこれまでに多く、しかも海外からの応募者も若い人たちの投稿が多かったという。琉歌の世界にも国際化の波が押し寄せているのである。上位入賞の八編までが海外からの応募者というから驚く。今回の「琉歌大賞」はハワイから応募した屋比久さんという方である。

藍花など、いままではあまり見ることもなく聞くこともなかったが、昔はどこでも見ることができたか、母の染めた藍の布地に寄

総かきて 染みて
織いなるちえる紺地
母の志情の
藍浜美らしや

せる思いはやはり琉歌の世界にふさわしい格調の高さを感じられる。同えば屋比久さんは那覇の出生で、ハワイに移住した一世の方である。ハワイにかぎらず、沖縄から南米などに移住した一世たちは、ふるさとの言葉を大切にしている。いまでは沖縄でさえもつたに使わなく忘れられた島言葉を話していた、屋比久さんもそうした一世の一人なのであろう。

私はあいつの最後に屋比久さんの大賞受賞をたえて、次のような琉歌を詠んでプレゼントした。

ハワイうてい咲ゆる 我した島言葉
志情ぬ美らさ 幾世までいん

書いた短冊をその場で屋比久さんに贈った。とてもよるこんでくださった。受賞式出席のため、自費をはたいてきて下さった屋比久さんへのせめてもの花向けである。

実はこの琉歌、入口のロビーのところで書いたものには、下の句の「志情ぬ美らさ 幾世までいん」を「志情ぬ美らさ 四海に渡り」としたものである。四海とは太平洋や大西洋など四つの大洋のこと、沖縄の方言では「しけ」と詠み、世界のことを意味する言葉である。沖縄の美しい心が世界に広がっているさまを詠んだものだが、字で見ると分かっていさづのときには「幾世までいん」と耳で聞いてすぐに入るものに書き換えたのであるが、みなさんはすぐに分かって下さってやんやの拍手をいただいた。

即興の入選発表が表彰式後の懇親会の席で行われ、私のものが一位に選ばれたときはわが耳を疑ったが、ともかくうれいさは格別であった。

今回の応募のもう一つの特徴であった若い人たちの応募であるが、関心の高さはまこと



琉歌大賞の屋比久さん(右)
児童生徒の部大賞の友寄さん(左)

に驚く。ただ若い人たちには方言による表現が困難なことから国語による表現が認められ、ほとんどがそれによるものだ。ちなみに今回の大賞(児童生徒の部)をとった友寄祥子さん(中三)の作品を紹介しよう。

母に連れられて 歩いた夕暮れ
やさしさあふれる 二つの影

この歌にみられるように「志情」はあるが、それを方言に乗せてうたうことができないのである。それでもいまいとところは、これをよしとして琉歌としてあつかっている。しかし、琉歌は琉球方言による表現が基本であるから、正確に言えば琉歌とはいえない。

そこで私が琉歌に関心を抱く若い人たちに勧めたいのは、まず国語で表現したものをもつて母あるいは祖父母に見てもらい琉球方言ではどのように言い換えたらいかにきいてみることにしよう。言葉のひとつひとつを、どうすれば適切な方言で言うことができるのかを聞いて直してみる訓練を積むことが大切ではないかと思う。そのなかから親子のコミュニケーションや、沖縄の伝統文化に対する関心を呼び起こすことができれば、一石二鳥というものである。

来年の琉歌大賞のテーマは「夢」である。「琉歌の里」から大きな夢の花が咲きほころのを、いまから夢見ている。

3名の審議委員を村長が任命！

恩納村特別土地保有税審議会

村の土地利用、都市計画又は土地に関する税制について学識経験者及び地方公共団体の職員の意見を聞き村の土地税制に反映される村特別土地保有税審議会の委員への辞令交付式が1月27日行なわれ、3名に辞令が交付されました。任期は、平成13年の1月26日まで。なお、審議会委員の辞令交付を受けたものは右の写真の3名です。



西銘宜寿 當眞嗣長 宮城辰吉

21世紀に活躍する 人材の育成を目指して

第五回村学力向上対策実践発表会

児童生徒のより一層の基礎学力の向上を目指し、村民の意識・連帯感・郷土愛の高揚を図ることを趣旨に、恩納村学力向上対策委員会(伊波肇委員長)主催による実践発表会が二月十七日喜瀬武原校で、学校関係者並びに村民二百五十名が参加して開催されました。

実践発表会では、はじめにこれまで村の教育の発展と振興に功績のあった個人十三名と一団体に仲嶺哲夫教育長から教育功労賞が授与されました。その後幼稚園児童話大会をはじめこれまでに実施された園児・児童生徒六名が舞台でお話や意見発表を行い、子ども会の活動報告では、ジュニアリーダー三名がOHPを使って田植えや稲刈などの活動を紹介してくれました。

児童生徒の基礎学力を高める指導を研究テーマに実践されてきた取り組みを、幼稚園及び村学力向上対策委員会の各専門部会の担当や代表がそれぞれの研究テーマで、学校と家庭(地域)の連携、地域活動を中心としたこれまでの活動が報告され、参加した学校関係者と村民が一緒に村の児童生徒に対する実践活動の成果と課題を新たに確認しました。

なお、教育功労賞受賞者は左のとおり。



▲これまでの取り組みを各専門部が発表

平成10年度 恩納村教育功労賞(受賞者名簿)

賞名	No.	氏名	住所・所属名	推薦者(団体名)
感謝状	①	金城 清(大宜武)	恩納村字名嘉54	村教育委員会
	②	當眞良雄	恩納村字瀬良垣2497-2	村教育委員会
	③	福地裕吉(福地武)	喜瀬村字本釜113	村教育委員会
表彰状	④	島袋正重	中頭教育事務所	村教育委員会、山田小中学校
	⑤	仲本政夫	仲泊中学校	村教育委員会
	⑥	渡波光雄	仲泊中学校	仲泊中学校
	⑦	瑞穂寛剛	喜瀬武原中学校	喜瀬武原中学校
	⑧	仲泊青年会	恩納村字仲泊40	仲泊自治会
感謝状	⑨	安富祖とみ	元山田小中学校	山田小中学校
	⑩	古波蔵ちず	仲泊小中学校	仲泊小中学校
	⑪	与根澄子	喜瀬武原小中学校	喜瀬武原小中学校
	⑫	石崎静枝	恩納村字恩納5318	村婦人会
	⑬	糸数昭宏	恩納村字山田70-1	山田小中PTA
	⑭	渡波健勇	恩納村字真栄田2704	村教育委員会

こんにちわ保健婦です。今月のテーマは、「禁煙のすすめ」

喫煙が健康に悪影響を及ぼすことはすでによく知られています。肺がんはもちろん、膀胱がんや肝臓がんなど、多くのがんの発症に関係しています。心臓病や呼吸器の病気、あるいは胃潰瘍などの消化器の病気もたばこを吸う人に多いことがわっています。

たばこについては、「百害あって一利なし」という言葉がよく使われていますがまさにそのとおりなのです。

例えば、たばこの煙に含まれている数千種類の科学物質のうちどの物質が遺伝子のどこに影響を及ぼすかということまで解明されています。

がんは遺伝子に異常が生じて細胞の性質が変わることによって発生しますが、その異常を起す要因としてたばこの煙は大きな原因の一つにあげられます。

ところが日本はまだ喫煙人口が多く、男性の59%、女性の15%が喫煙者です。男性の喫煙者はアメリカで30%、スウェーデンでは26%ですから日本人男性の喫煙率がいかに高いかがわかります。



しかし、たばこを吸っている人も喫煙を肯定的に考えているわけではないようです。ある調査によると、喫煙男性の68%の人が「たばこをやめたい、へらしたい」と考えているようです。

つまり、多くの人はたばこをやめたいと思いつつながらもなかなかやめられなくて人々なのです。

ここで成功させるための準備と工夫を紹介しましょう。

<禁煙への準備>

①禁煙開始日を決める。
仕事や生活リズムの少ない時期を避ける。

②腹八分目を心がける。
禁煙を始めてから数日は、脂肪の多い肉や魚、卵は控え食べすぎないように注意する。

③野菜や果物をとる。
野菜や果物を積極的にとるようにする。水気の多いものやさっぱりしたものが多い。

④禁煙していることを宣言する。
家族や職場の人に、禁煙していることを宣言する。

⑤喫煙道具を捨てる。
たばこ、灰皿、ライター、マッチなど喫煙道具は思い切って捨ててしまおう。

⑥禁煙理由を再確認する。
なぜ自分が禁煙するのか、いつでも確認できるように工夫する。

禁煙を成功させるための工夫



みなさん、いかがですか。もし禁煙に失敗しても、あきらめずに何回でも挑戦することが大切です。やめたいと思っている人は今日からはじめてみませんか。



▲新村長を激励に多くの方が訪れる

新村長の就任を五百名余で祝う 大城英喜村長就任祝賀会

一月二十四日に第二十四代恩納村長に就任した大城英喜村長の就任を祝おうと、農協、漁協、商工会の共催で二月五日、村コミュニティセンターで五百名余りの村民らが参加し大城村長の就任祝賀会が盛大に開催されました。

祝賀会ではまず、富山安治J Aやんばる恩納支所長から「新村長として村のために力量を発揮していただきたい」と開会のあいさつがあり、文化協会の会員らによる古典音楽の演奏や琉球舞踊も披露され新村長の就任を祝いました。

大城新村長はあいさつのなかで「村民の皆様の期待を大切に村政を運営していきたい」とし村長就任のお礼と今後の抱負を述べていました。

また、比嘉茂政県出納長は激励のあいさつで「職員は村長をサポートし、観光水産業を軸にした村づくりを期待しています。」とあいさつがあり、会場からは終始大城新村長に頑張ってください。と激励のことばが聞こえてきました。



▲会場で感謝のあいさつを述べる村長



▲ゴール目指してガンバリました

自然に触れさわやかな汗を流す 第二十四回恩納村歩け歩こう大会

自然に触れ合いながらさわやかな汗を流そうと、村教育委員会が主催する第二十四回歩け歩こう大会が二月二十一日の日曜日、県民の森にて開催されました。

「歩く」という手軽で簡単にいつでも実践できる健康法を取り入れながら、自然に触れさわやかな汗を流そうと実施された大会には子ども同士の参加や親子づれ等約七十名が参加して、県民の森を出発後、喜瀬武原集落内を通り再び県民の森へと戻る約八・五キロのコースに小さな子から大人まで元気に挑戦しました。

ツツジが咲きはじめている県民の森を抜け喜瀬武原区内では、準備されたアンケートに答えながら集落内を散策していました。

参加者はゴールを目指しお互いに励まし合いながら道のりを楽しみ無事ゴールにたどり着きました。

到着後、開会式では参加者それぞれに完歩賞が授与され、最近少なくなった歩くということを通して健康な汗を流した有意義な一日を過ごしました。



▲親子づれも多く参加しました

手作り効果音の世界を体験 ぶたいはともだち(山田校公演)

児童生徒に生の芸術に触れる喜びを与える目的で二月二十六日、山田校で沖縄県子ども青少年芸術劇場、「ぶたいはともだち」の公演が開催されました。

開会セレモニーで宮城清校長は子ども達に、「生の舞台を見て多くのことを学びとって下さい。」とあいさつがありました。

海のユイムン(寄りもの)と題した舞台では、はじめに山田中の生徒がつくった海をテーマにした詩を中学生九名が舞台上で群読しその後、雨音や船の汽笛、馬の走る音などの効果音を小学生が舞台上で出演者の指導を受けて実演していました。

舞台の本編では、海辺に打ち寄せられた小瓶の不思議な力によってひと騒動待ち上るという内容で出演者三名と効果音係一名の他に山田中学校の生徒三名も出演して、舞台と会場が一つになった公演が行なわれました。

公演終了後、児童代表から「身の回りからいろいろな音が作られるということを知りました。」とお礼のあいさつがありました。



▲子ども達も音づくりに挑戦



▲舞台に多くの生徒も参加



▲指導を受けながら実験の準備

生活の中にある材料を使用して実験 伊波肇先生の「おもしろ科学実験講座」

真栄田出身で村の教育委員長でもある伊波肇先生を講師にむかえた「おもしろ科学実験講座」が二月十八日、喜瀬武原校で開催されました。

講師の伊波氏は財団法人「全日本地域研究交流会」のサイエンスレンジャーの資格を与えられ文化地域交流の一環として全国的にも活躍中である。今回の講座は、児童生徒に生活科学に興味と関心を抱かせる目的で生活の中にある材料を使用し、二十年間の研究成果で実証した「生卵とゆで卵の分別の仕方」や「霜をつくる」公開実験が行なわれました。

講座のはじめに行なわれた氷と塩を使った「霜をつくる」実験では、各班毎で実験に取り組み氷がなぜ冷たく感じるのか、どおして霜ができるのかといった疑問を実験とおして子ども達に説明していました。

「おもしろ科学実験講座」は喜瀬武原校のほか、山田校でも行なわれ分りやすく楽しい実験で科学を身近に感じながら夢とロマンをかき立てる実験になりました。



▲班で協力して霜づくり

